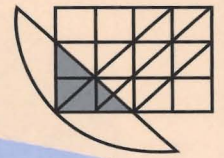


博物館だより



和歌山県立博物館
WAKAYAMA PREFECTURAL MUSEUM

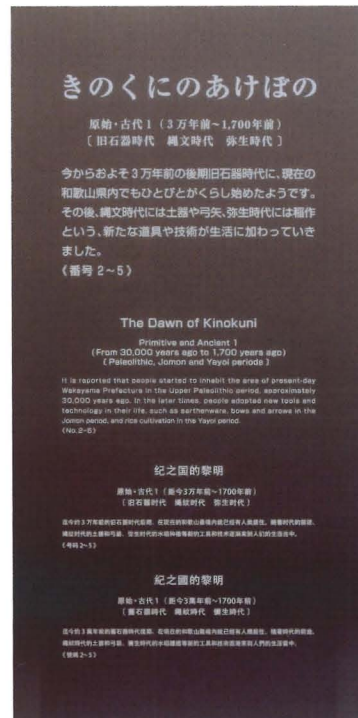
No.21
2016.3

世界の人びとに開かれた博物館へ

県立博物館では、新館開館以来、外国語を母語とする来館者に対応するために、少しずつ常設展のパンフレットやコーナーの概説文・個別のキャプションの一部に、英語表記を加えています。また、展示内容について携帯型端末を用いて解説する音声ガイドにも英語版を導入するなど、とくに英語による表示・解説を補足的に行ってきました。そのような中、和歌山県を訪れる外国人観光客の数は、ここ数年増加傾向にあります。県内外外国人宿泊数の推移をみると、平成二三年（二〇一一）が

八万人余りであったのに対して、平成二六年には三〇万人余りとなり、急激に増加していることがわかります。その中でも、中国系観光客（香港・台湾・中国本土系）の増加が顕著です。

このような状況はこれまでになかったことで、英語だけでなく、東アジア系の言語への対応が求められるようになってきています。そこで、当館では文化庁の補助金を得て、平成二六年度に常設展のパンフレットを改善して、日本語・英語・中国語（簡体字・繁体字）の四種類を新たに制作しました。制作にあたっては、和歌山県文化国際課の国際交流員に翻訳の協力を得ています。また、常設展入口の



常設展 入口の表示

各コーナーの概説も、四種類の言語で併記しました。さらに平成二七年度には、音声ガイドの全体的な改良を行ってきました。その結果、日本語（一般コース）・英語

常設展 外国語パンフレット

このような状況はこれまでになかったことで、英語だけでなく、東アジア系の言語への対応が求められるようになってきています。そこで、当館では文化庁の補助金を得て、平成二六年度に常設展のパンフレットを改善して、日本語・英語・中国語（簡体字・繁体字）の四種類を新たに制作しました。制作にあたっては、和歌山県文化国際課の国際交流員に翻訳の協力を得ています。また、常設展入口の

わたしたちのたからもの

和歌山県立博物館の名品展

4月23日(土)～6月5日(日)

和歌山県立博物館では、和歌山県ゆかりの文化財を購入・受贈・受託という方法で収集活動を行っています。購入・受贈により館に所蔵された資料は館蔵品、受託し長期間借用している資料は寄託品とよびます。収蔵している資料の中には、国宝や、重要文化財、

代表的な名品を選んで展示します。ふだん公開されることの少ない文化財、貴重な指定文化財、館蔵品を代表するような資料を、どうぞご鑑賞ください。

県指定文化財も多く含まれています。この特別展では、県立博物館の館蔵品・寄託品の中から、



葵紋板文庫 (和歌山県立博物館蔵)



赤坂庭園五十八勝図 谷文晁筆 (部分)
(和歌山県立博物館蔵)



和歌山県指定文化財
那智三瀑図 野呂介石筆
(和歌山県立博物館蔵)

「さわれる資料による文化財の保存・活用と博物館のユニバーサルデザイン事業」

平成22年度から、県立和歌山工業高等学校、県立和歌山盲学校と協力しながら、さわれるレプリカ、さわって読む図録を作製する博物館のユニバーサルデザイン事業を取り組んでいます。平成26年度には内閣府・バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進功勞者表彰の総理大臣表彰を受けています。平成27年度は企画展「仮面は語る」(会期11月10日～12月6日)の会場に、展示資料と連動したさわれる仮面を4面設置し、多くの方が楽しくご利用されました。また海南市と紀の川市の寺

院で、複製資料を活用した文化財の防犯対策も行いました。さわって読む図録は「絵でたどる熊野信仰の歴史」を作製。博物館内や県内図書館等でご利用いただけます。



左が実物 右がレプリカ

地域に眠る「災害の記憶」と文化遺産の発掘事業

平成26年度から、和歌山県教育庁文化遺産課、和歌山県立文書館と連携し、県内外の歴史研究者の協力も得て、近い将来起こる可能性が指摘されている東海・東南海・南海3連動地震や南海トラフ巨大地震とそれに伴う津波から命と財産(文化遺産を含む)を守るため、「災害の記憶」の発掘と文化遺産の所在確認調査を行っています。調査成果の一部は、小冊子(『先人たちが残してくれた「災害の記憶」を未来に伝える』I・II)や現地学習会で、皆さん

にお伝えしています。今年度も継続して、この事業を進めていく予定です。小冊子は、博物館のホームページからダウンロードすることができ

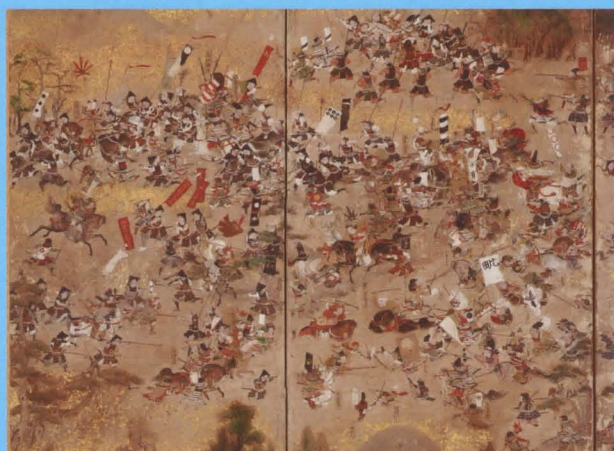


現地学習会の様子

戦乱の世から泰平の世へ

— 16、17世紀の紀北・泉南地域 —

9月10日(土) ～ 10月10日(月・祝)



川中島合戦図屏風(部分) (和歌山県立博物館蔵)

天正一三年(一五八五)の羽柴秀吉の紀州攻めを境に、紀州の近世は幕を開けます。この特別展では、戦国時代に紀北・泉南地域において勢力を有した高野山・粉河寺・根来寺・雑賀衆などに注目し、それらが信長・秀吉による統一権力と対抗しつつも

敗北し、やがて徳川による幕藩体制が確立していくなかで順応していく様子を、残された資料から明らかにします。



和歌浦図屏風(部分) (和歌山県立博物館蔵)



重要美術品 鉄鎧地雑賀鉢兜 (和歌山市立博物館蔵)

蘆雪潑刺

— 草堂寺と紀南の至宝 —

10月18日(火) ～ 11月23日(水・祝)

江戸時代、紀南地方の禅宗の拠点寺院となった、白浜町・草堂寺。この特別展では、本堂再建の天明六年(一七八六)から二二〇年を迎える本年、再建時に長沢蘆雪が描いた生命力あふれる障壁画を中

心に、草堂寺をはじめ紀南に伝わる名品を展示します。寺院と絵師が地域で果たした役割や、紀南の豊穡な近世文化を、蘆雪・応挙・若冲らの作品とともに紹介します。



和歌山県指定文化財 鸚鵡図 伊藤若冲筆



重要文化財 群猿図屏風 長沢蘆雪筆



重要文化財 雪梅図襖 円山応挙筆

(いずれも草堂寺蔵、部分)

常設展	きのくにの歩み —人々の生活と文化—	4月1日～8月31日 12月3日～3月31日	三万年にわたるきのくにと和歌山県の歴史を、人々の生活と文化を主題として、七つのコーナーに分けて、時代の順にわかりやすく展示します。各コーナーには、「さわれるレプリカ」があります。なお、特別展「戦乱の世から泰平の世へ」及び特別展「蘆雪潑刺」の開催期間中は、常設展示を行っていません。
------------	-----------------------	---------------------------	--

企画展	海の国・わかやま	3月12日～4月17日	海に囲まれた紀伊半島では、海と深い関わりのおかげで人々は暮らしてきました。海岸沿いの村・町の風景や、漁業や海運などの暮らし、さらには水軍などに関わる資料を中心に、海を舞台にたくましく生きてきた、きのくにの人々の営みについて紹介します。
------------	----------	-------------	---

特別展	わたしたちのたからもの —和歌山県立博物館の名品展—	4月23日～6月5日	県立博物館では、昭和四六年（一九七二）の創設以来、購入・受贈・受託により文化財を収集しており、その中には国宝・重要文化財や県指定文化財をはじめ、貴重な資料が多く含まれています。今回の特別展では、県立博物館で收藏・保管している文化財の中から、代表的な名品を選んで展示します。
------------	-------------------------------	------------	--

企画展	防ごう！文化財の盗難被害	6月11日～7月10日	和歌山県では平成二二～二三三年春にかけての一年間で、六〇件以上にも及ぶ、空前絶後の文化財盗難被害が発生しました。被害の背景には各集落の高齢化・過疎化問題があり、今もなお、盗難被害を受ける危険性は高いままです。文化財盗難の実態を紹介することで、新たな被害を防ぐためのアピールを行います。
------------	--------------	-------------	--

夏休み企画展	きのくにに人物百科 —姿とことば—	7月16日～8月31日	きのくにと和歌山には、弘法大師空海や明恵上人・徳本上人、徳川頼宣をはじめとする歴代の紀伊徳川家、華岡青洲や本居宣長など、非常に多くの偉人がいます。この企画展では、平安時代～江戸時代に和歌山で活躍し、ゆかりのある様々な有名人名について、肖像画と記録を中心に紹介いたします。
---------------	----------------------	-------------	---

特別展	戦乱の世から泰平の世へ —16～17世紀の紀北・泉南地域—	9月10日～10月10日	天正一三年（一五八五）の羽柴秀吉の紀州攻めによって、紀州の近世は幕を開けます。戦国時代に紀北・泉南地域において勢力を有した高野山・粉河寺・根来寺・雑賀衆などが、信長・秀吉による統一権力と対抗しつつも敗北し、やがて徳川による幕藩体制に順応していきます。その様子を残された資料から紹介いたします。
------------	----------------------------------	--------------	--

特別展	蘆雪潑刺（ろせつはつらつ） —草堂寺と紀南の至宝—	10月18日～11月23日	白浜町・草堂寺は、江戸時代、紀南の禪宗の拠点寺院となりました。本堂再建の天明六年（一七八六）から二〇〇〇年を迎える本年、再建時に長沢蘆雪が描いた生命力あふれる障壁画を中心に、草堂寺と紀南の名品を展示します。応募・若冲らの作品もあわせ、寺院と絵師が地域で果たした役割、豊穣な紀南の文化を紹介します。
------------	------------------------------	---------------	--

企画展	和歌浦・屏風・名所	12月3日～1月15日	和歌浦は、万葉の時代から日本を代表する景勝地として知られ、江戸時代には日本三景と肩をならべるような名所でした。そのため和歌浦は、名所絵や真景図といった絵画作品として表現されることも多くありました。この企画展では、江戸時代の和歌浦の風景を描いた屏風の作品を中心に展示します。
------------	-----------	-------------	--

企画展	有田川中流域の仏教文化 —重要文化財・安楽寺多宝塔修理完成記念—	1月21日～3月5日	有田川町二川の安楽寺に所蔵される南北朝時代に建立された重要文化財・多宝小塔は、平成二七年度から修理が施され、平成二八年度に完成します。この企画展では、この多宝小塔を初めて寺外で公開するとともに、安楽寺の文化財を中心として、高野山とも深くつながりを持つ有田川中流域の仏教文化を紹介します。
------------	-------------------------------------	------------	---

企画展	躍動する紀南武士 —安宅氏と小山氏—	3月11日～4月16日	紀伊国南部（紀南）では、平安時代の終わりがら以降、熊野水軍など多くの武士が活動していました。この企画展では、日置川流域に拠点をもった安宅氏や小山氏に関わる資料を中心に、鎌倉時代～江戸時代の熊野の山林や海を舞台にたくましく生きる紀南武士の姿を紹介し、新たな熊野水軍の実像に迫ります。
------------	-----------------------	-------------	--

お知らせ

◆博物館では、主要な作品をイヤホン式ガイド機で解説する音声ガイドを提供しています。（一般二〇〇円、高校生以下一〇〇円）。常設展については、上級コース・英語版もあります。
◆博物館では、学校行事での利用はもちろん、職場体験やミュージアムボランティア・教育研修など、学校と連携した教育・普及活動にも取り組んでいます。詳しくは当館学芸課までお問い合わせ下さい。またホームページにも案内を掲載しています。
<http://www.hakubutu.wakayama-c.ed.jp>

和歌山県立近代美術館（博物館となり）の展覧会

恩地孝四郎展 — なつやすみの美術館6「きろくときおく」—
4月29日～6月12日
7月2日～9月19日
10月12日～10月30日

県展
動きだす！絵画 モネ、ゴッホ、ピカソらと大正の若き洋画家たち
11月19日～1月15日

コレクション展 2017年春
1月27日～3月31日

※このほかコレクション展や特集展示、特別事業なども開催されます。

博物館の利用案内

開館時間 午前9時30分～午後5時（入館は午後4時30分まで）
休館日 月曜日（祝休日の場合は翌平日）、年末年始。展示替えにともなつて臨時休館する場合があります。詳しくは博物館までお問い合わせ下さい。

駐車場

来館者	来館者以外
1時間まで 200円	300円
以後30分ごと 100円	100円

※大型バスでご利用の場合はお問い合わせ下さい。

入館料

〈常設展・企画展〉

個人	一般	大学生
280円	170円	
団体	220円	140円

※特別展は別料金になります。

※高校生以下、65歳以上、障害者、県内に在学中の外国人留学生は無料です。

※企画展示室の展示替え期間中は常設展示のみとなります。

和歌山県立博物館友の会

—平成28年度会員募集—
友の会では、バスツアー、書籍の割引販売などの事業を行っています。
入会のお申し込み・お問い合わせは友の会事務所（TEL 073-436-8670）まで。

交通



JR和歌山駅または南海和歌山市駅から「県庁前」(バス停)下車、徒歩2分

和歌山県立博物館 博物館だより 第21号

編集 和歌山県立博物館
〒640-8137 和歌山市吹上一丁目4番14号
TEL(073) 436-8670
<http://www.hakubutu.wakayama-c.ed.jp>
平成28年(2016)3月発行